

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第8号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考としてご活用ください。

記

9月上旬の屋外のタバココナジラミの密度は平年並から多く、タバココナジラミのTYLCV保毒虫数は平年比やや多〜並であった。黄化葉巻病の発生を防止するため、従来どおりの防除を徹底しましょう。

1 調査結果

- 1) 9月5～9日に、冬春トマト栽培地域の屋外に設置した黄色粘着板で捕獲されたタバココナジラミの頭数は平年並〜多であった（表1）。
- 2) 9月3～10日に、冬春トマト栽培地域の屋外に設置した黄色粘着トラップで捕獲したタバココナジラミのTYLCV保毒虫率は、熊本市では5.0%（平年7.5%）と平年に比べてやや低く、玉名市は6.7%（平年6.1%）、八代市は3.3%（平年3.3%）で平年並であった（表2）。
- 3) 感染リスクの指標である屋外保毒虫数（上記の捕獲頭数およびTYLCV保毒虫率から計算して算出）は、熊本市は0.15（平年0.10）で平年に比べてやや多く、玉名市は0.16（平年0.19）、八代市は0.01（平年0.03）で平年並であった（表3）。

2 防除対策

- 1) ハウスの開口部（サイド、谷部など）には目合い0.4mm以下の防虫ネットを設置する。すでに設置しているハウスについては、被覆ビニルや防虫ネットに破損や隙間が無い点検し、必要に応じて補修する。
- 2) ハウス内に黄色粘着トラップを設置し、タバココナジラミの早期発見に努める。
- 3) 野外から飛び込んだタバココナジラミを施設内で定着させないため、11月頃までは成虫を主体とした薬剤防除を行う。
農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。
- 4) ハウス内の発病株は感染源となる。見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。
- 5) 抵抗性品種であっても感染源と成り得るため、感受性品種と同様に防除を行う。
- 6) ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となる。栽培期間中は定期的に除草する。
- 7) 野良生えトマトは、重要な伝染源となるので抜き取り土中に埋める等適正に処分する。

表1 屋外におけるタバココナジラミの捕獲頭数

地点名	日あたり捕獲頭数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2017	2016	2015	2014	2013	
熊本市	2.96	0.67	0.67	0.17	4.81	0.88	1.40
玉名市	2.43	0.76	8.09	0.43	2.24	1.99	2.70
八代市	0.27	0.07	1.73	0	0.05	0.15	0.40

注) 捕獲期間は9月5～9日。
黄色粘着板(10cm×10cm)を1地点あたり3～12枚設置。
平年値は2013年から2017年の5カ年平均。

表2 屋外で採集したタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

地点名	保毒虫率 (%)						平年値
	本年	2017	2016	2015	2014	2013	
熊本市	5.0(60)	15.0(60)	6.7(60)	-	5.4(56)	2.8(36)	7.5
玉名市	6.7(60)	3.3(60)	6.7(60)	4.2(48)	12.5(24)	4.0(50)	6.1
八代市	3.3(60)	1.8(56)	5.0(20)	-	-	3.1(32)	3.3

注) 採集時期は、9月上旬。()内の数値は、検定数。
平年値は2013年から2017年のうち、欠測年を除く3～5カ年平均。

表3 屋外保毒虫数の試算

地点名	日あたり保毒虫数 (頭/日/枚)						平年値
	本年	2017	2016	2015	2014	2013	
熊本市	0.15	0.07	0.04	-	0.26	0.02	0.10
玉名市	0.16	0.03	0.54	0.02	0.28	0.08	0.19
八代市	0.01	0.00	0.09	-	-	0.00	0.03

注) 保毒虫数=捕獲頭数×保毒虫率
捕獲頭数：表1のとおり
保毒虫率：表2のとおり
平年値は2013年から2017年のうち、欠測年を除く3～5カ年平均。

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係 (病害虫防除所)
担当：春山、斉藤 TEL : 096-248-6490